

薬師岳山行記録

(記 鳥切 昇治)

1. 山域・山名 北アルプス 薬師岳(2,926m)
2. 期 日 2011年7月14日(木)～7月17日(日)
3. メンバー (L)横山高明(72才) 鳥切昇治(71才)
4. 行動記録

7月14日(木)天候:晴 自宅～東京～越後湯沢～富山

東京駅上越新幹線23番ホームで待ち合せて「Max とき333号」の自由席2階に乗る。空いていた。越後湯沢でほくほく線経由「特急 はくたか20号」に乗り換える。6両編成で自由席2両の電車は混んでいたが座ることが出来た。夕食は駅弁。7時03分頃真っ赤な夕日が日本海に沈む光景は、感激の美しさだった。

富山駅で宿泊予約(折立行きバス乗車券付パック)してある富山地铁ホテルまで歩く。チェックイン後、明日のバス乗り場の確認と朝食を買い込む。富山駅前には新幹線建設工事の関係でバス発着場が変わったそうで、JR富山駅の改札口前だった。明日は早いのでホテルに戻り早々に就寝。

往路コースタイム

東京発 16:12(Max とき333号)—17:30 越後湯沢 17:38(特急 はくたか20号)—19:40 富山着
(富山地铁ホテル泊)

7月15日(金)天候:晴 富山～折立～太郎平小屋～薬師岳山荘

今日から有峰林道が開通と言う事で、バスが混むかと思っていたが意外と空いていた。5時発折立行きの直行バスは途中の道の駅で10分程休憩をとり、予定より早く折立に到着した。

登山口の駐車場にはかなりのマイカーが駐車していた。登山口に休憩舎、トイレがあり水が補給出来



薬師岳が見えて来た

てくれる。左方に女性的な薬師岳が見えて来た。五光岩ベンチから広い緩やかな登山道を登って行くと、太郎平小屋に到着した。太郎平小屋の標高は2330m。小屋脇に、まだ新しい公衆トイレがあった。



折立登山口

る。この標高は1350m。樹林帯の中を登り始める。太郎坂の急登も樹林のお蔭で涼しくて助かる。それなのに横さんは、汗もかいていないのに暑い暑いと言う。

三角点を過ぎると日陰を作る高い木が無くなり暑くなる。草原にはニッコウキスゲが咲いて気持を癒し



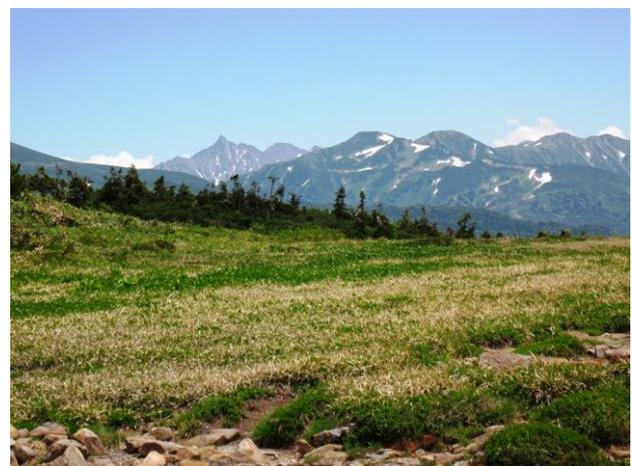
五光岩ベンチ付近を登る



太郎兵衛平



沢筋の急登を上部まで登る



薬師平から槍ヶ岳

薬師岳、黒部源流の山々や雲ノ平の眺めが良い。横さんの体調は思わしくないが、体力的には大丈夫と言う。時間も十分あるので、大休止後予定通り薬師岳山荘に向う。

太郎兵衛平の木道を歩く。花が少ないように感じた。薬師峠はキャンプ場になっている。黒部五郎岳が谷間から見える。水を補給して沢筋の急登を登る。シナノキンバイ、キヌガサソウ、サンカヨウがひっそりと咲いている。上部まで登ると雪渓が残っていて、タオルに雪を詰め横さんの首に巻く。気持ち良いと言う。薬師平から槍ヶ岳がくっきり見える。

お花畑にはチングルマ、ハクサンイチゲ、イワイチョウが咲いている。道もなだらかとなり開放的で花を楽しみながら登る。薬師岳山荘まで15分の標識の所で小休止し、もう一息と登り始める。ピークを左に回り込むと薬師岳山荘が目に見えて来た。「薬師岳の圏谷群」石碑の前で写真を撮ってもらう。

薬師岳山荘は昨年建て替えられたそうで新しい。宿泊手続きをしていると女主人のおかみさんが出て来て、熱いお茶を出してくれ迎えてくれた。

薬師岳に登る時間はあったが明日登ることにし、部屋で休んだり、外に出て写真を撮ったりして過ごす。



薬師岳山荘

夕食後、雲海に沈んで行く夕日がきれいだった。

コースタイム

富山 5:00—(バス)—6:50 折立 7:07—8:36 三角点—10:13 五光岩ベンチ—10:55 太郎平小屋 11:30—11:50 薬師峠 11:55—12:45 薬師平 12:50—13:40 薬師岳山荘(泊)

7月16日(土)天候:晴 (薬師岳往復) 薬師岳山荘～太郎平小屋～雲ノ平山荘

3時に起床、キャップライトを点けて薬師岳山頂に向う。月明かりでキャップライトが要らない位だ。風は強くはないが冷たくて素手が冷える。避難小屋のある所から稜線を辿り山頂に向う。既に水平線がオレンジ色に染まっている。山頂の祠にお参りして、風が当たらない場所で日の出を待つ。日の出まで時間がありそ



夜明け前の薬師岳山頂



薬師岳からの日の出

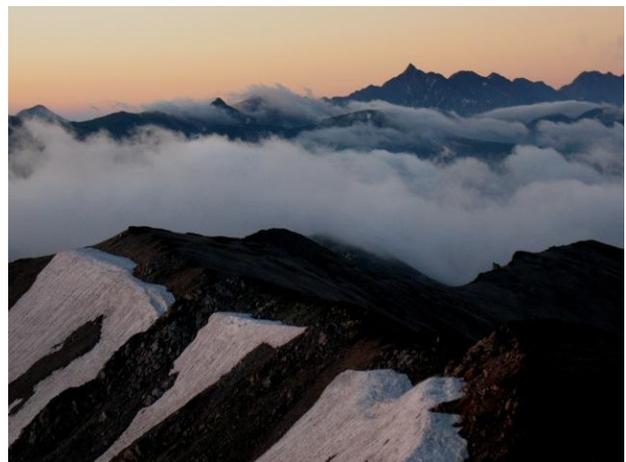
うなので避難小屋のある所まで戻る。日の出は素晴らしかった。又、槍ヶ岳が神々しかった。

薬師岳山荘に戻って朝食を摂り出発する。おかみさんが見送ってくれた。薬師峠で顔を洗い、水を補給する。薬師岳山荘は天水なので顔は洗えなかった。少し登って太郎兵衛平の木道を歩く。



太郎兵衛平から黒部源流の山々と雲ノ平

太郎平小屋の裏手から雲ノ平方面への道に入る。今日も暑くなりそうで下るに従い暑くなって来た。左俣出合の橋を渡って小休止。ここから薬師沢出合ま



雲海の上に槍・穂高が浮かぶ



左俣出合

で休まずに下る。

薬師沢小屋は以前来た時の場所と違う所に建っていた。自分の記憶違いか？吊り橋も昭和56年に建て替えられて頑丈な吊り橋になっていた。吊り橋を渡り黒部川に沿って少し下り、高天原との分岐から雲ノ平への直登に入る。樹林帯の中で涼しいのだが汗ばむ。次第にピッチも遅くなる。



雲ノ平アラスカ庭園

木道をのんびり歩く。這松が続き、お花畑にはチングルマ、アオノツガザクラ、コイワカガミなどが咲いている。ドーム型の雲ノ平山荘が見えて来た。



ロックガーデンの丘にある雲ノ平山荘

ンの丘にある。受付を済ませ指定された布団の所へ上がる。太い梁が低くて頭をブツケテいる人が多い。雲ノ平山荘も天水利用なので水は有料。無料の飲み水はキャンプ場まで行かないと無いと言うので、散策がてら出掛ける。キャンプ場は祖父岳の麓にあり30分程かかると言っていたが意外と近かった。

横さんの分まで水を汲み、体を拭いたらサッパリした。雲ノ平を歩いていると不思議と落ち着いた気分になり



薬師沢小屋と吊り橋

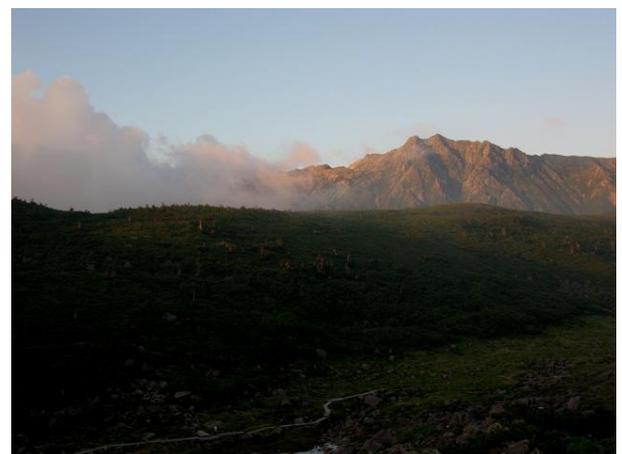
道が緩くなり青空が広がって来た。木道になり開けた所に出た。雲ノ平アラスカ庭園の所だった。

別天地の風景が広がる。水晶岳を正面に見ながら



水晶岳を正面に見ながら木道を歩く

雲ノ平山荘も建替え中の様で内装作業が行われている。ここは雲ノ平の真ん中に位置するロックガーデン



ベランダから水晶岳の夕焼けを見る

なる。何故だろうか？ ロックガーデン、お花畑、雪田、周囲の山々に囲まれているせいなのか。
夕食は石狩鍋だった。8人でテーブルを囲み大鍋から小皿にとり食べる。山小屋で鍋料理を食べるのは初めてである。おいしかった。ベランダから水晶岳の夕焼けを見る。西側に雲があって焼け方は今一だったがきれいだった。虫が多くて閉口した。明日は暑さを避けるため早出する。朝食は弁当にした。

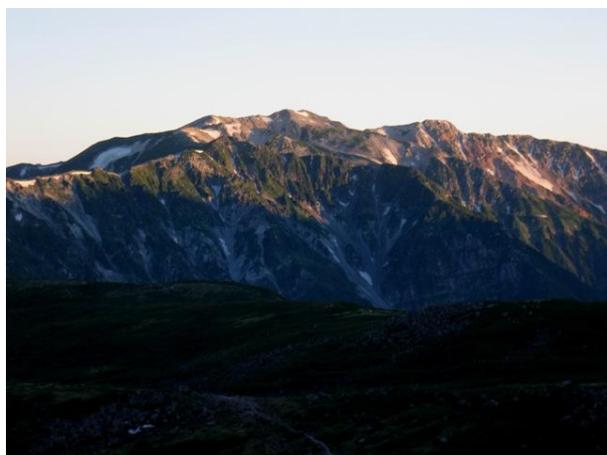
コースタイム

(薬師岳往復;薬師岳山荘 3:20—4:10 薬師岳—避難小屋 4:45—5:05 薬師岳山荘)

薬師岳山荘 5:53—6:46 薬師峠 7:00—7:20 太郎平小屋—8:10 左俣出合 8:20—9:30 薬師沢出合 9:50—12:20 雲ノ平アラスカ庭園 12:30—13:30 雲ノ平山荘(泊)

7月17日(日)天候:晴 雲ノ平山荘～三俣山荘～双六小屋～鏡平～新穂高～平湯～新宿～自宅

4時に小屋を出る。木道はキャンプ場を回り込むように祖父岳に向う。祖父岳中腹でキャンプ場からの道と合流する。キャンプ場からの道は地図には書かれていない道だが、ショートカットされて近いと感じた。



薬師岳に朝日が当たってきた

三俣山荘に登り返す。キャンプ場に出たから三俣山荘まで行く。鷲羽岳がデンとして見下ろしている。三俣山荘前のテーブルで朝食の弁当を食べる。弁当は予想外においしかった。



双六岳のカールにお花畑が広がる

た。小休止後鏡平へ向う。キャンプ場から双六池の脇にクロユリが一杯咲いていた。稜線まで登る。槍・穂高が眼前に広がる。稜線を歩いて行くと雪田がある花見平に到着。お花畑は華やかに咲き誇っている。槍・穂高を眺めながらしばしベンチで休む。コルで弓折岳への道と分れ急坂を下る。登って来る人

振り返ると薬師岳に朝日が当たっている。祖父岳に登る分岐からトラバースルートに入る。所々雪田を歩く。

急坂の下りになる。膝を痛めない様慎重に下る。何本か道があるようだが雪渓が残っていて上から見て右側を下る。下り切って少しトラすると黒部川水源地標の石碑があり小休止する。このエリアは黒部川の源流なのだ。谷間でまだ日が射して来ない。



三俣山荘から鷲羽岳

ようやく横山さんの調子が上がって来たようで良いペースで歩いている。三俣峠までの登りは暑くてマイッタ。三俣蓮華岳に登らずにトラバースルートに入る。お花畑がきれいだった。カールの残雪が多く涼しさを感じて歩く。

双六小屋は相変わらず大勢の登山者で賑わっていた。

が多い。鏡平山荘にあと一息という所で横さんが道の左前の溝にのめるように頭の方から転倒した。幸



稜線に出ると槍ヶ岳が正面に見える

鏡平山荘を通過して鏡池で休む。風が無いので池に写る槍・穂高が良い。当初は鏡平山荘に泊る予定にしていたが新穂高まで下ることにした。

小池新道の下りは暑かったが、途中の沢の水を飲み、疲れも出てユックリ下る。左俣林道に出て、下って来た秩父沢を振り返る。朝4時から良く歩いて来たものだ。

わらび平小屋で少し休んでから、新穂高まで重い足取りで林道を新穂高へと歩く。

コースタイム

雲ノ平山荘 4:00—4:53 祖父岳分岐 5:03—6:10
黒部川水源地標 6:20—6:53 三俣山荘 7:15—7:55
三俣峠—(巻道ルート)—9:35 双六小屋 9:45—10:40
花見平 10:50—11:32 鏡平山荘—11:35 鏡池 11:50—(小池新道)—14:00
左俣林道 14:10—14:18 わらび平小屋 14:21—15:20 新穂高

いたいた怪我も無く、眼鏡も無事で良かった。



鏡池に写る槍・穂高



左俣林道に出て小池新道を振り返る

帰路:新穂高バスターミナルの観光案内所で平湯行きバスの便を聞いていたら臨時のバスが間もなく出ると言うのでそのバスに乗る。平湯行きバスは無いと思っていたのでラッキーだった。

16時に平湯に着いてバスの発券所で新宿行き高速バスがあることを確認し、予約してチケットを買った後、新宿行きの前に松本行きのバスがあることが分った。迷ったが、まあいいやと汗を流しに「ひらゆの森」へ行く。ひらゆの森から出て来たら、バス発車時刻まで30分を切っていて夕食を食べる時間が無くなってしまった。仕方なく飲物と食べ物を買ってバスを待つ。

高山からの高速バスが到着したら運転手が、3連休の真ん中で中央道の小仏トンネルを起点にして30kmの渋滞になっていて、これから更に渋滞は伸びるので新宿到着は2時間以上遅くなるとの話である。終電に間に合うか心配になったが、もうバスに乗るしかないと腹をくくる。

一般道も松本ICまで渋滞で時間がかかる。中央道に入ると渋滞は40km笹子トンネルまで伸びていた。双葉SAで休憩して再び走って行くと、渋滞は30kmまで短くなり渋滞解消の期待を抱かせた。しかし、大月ICを通過した後のトンネル付近から渋滞は始まった。結局渋滞が解消したのは相模湖IC付近で

新宿に到着したのは12時を廻っていた。新宿で別れたが二人とも終電に間に合わず、朝の電車に乗って帰宅する羽目になった。

復路コースタイム

新穂高 15:30—16:00 平湯 17:40—(高速バス)—翌 0:07 新宿

後記

今回の山行は天候に恵まれ、雷雨も無く、風も弱く、日の出・日の入りも見ることが出来ました。天気に関しては最高の3日間でした。景色も最高で、高山植物も沢山見ることが出来ました。

横山さんの下山中の転倒は、たいした怪我が無くて幸いでした。転倒場所の状況を考えれば大怪我をしても不思議ではありませんでした。後ろから見ていてふらつく状況が観られたので注意してやるべきだったと反省しています。これを教訓にして次の山行に活かして行かなくてはなりません。

近年、高齢登山者の遭難や事故が多いと言われています。自分では注意して登山しようと自覚はしていますが、若い時の様に体が反応しないし、疲れて来た時は注意力も散漫になり易いです。私はバランスが悪くなっているので、歩く時も安全な場所以外は両ストックを使っています。又、体調管理にはそれぞれがベストの状態に持って行くようにしなければならない。今回の入山は、当初夜行バスを予定しましたが、電車に切り替えてホテル宿泊にしました。それでも初日、熱中症のような症状が見られ、体調が悪かったようです。お互いを観察し、無理をしない様適切な対応をして登ることが必要と感じました。

以上